

2019年度 中国・ベトナム自動車関連施設視察報告書

2019年8月20日～2019年8月24日

ゴールドキング株式会社 代表取締役社長 小澤 賢記(部会長)

天龍工業株式会社 代表取締役社長 吉川 徳雄(副部会長)



【はじめに】

日本自動車車体工業会資材部会は中国、ベトナム自動車関連施設の視察を8月20日より8月24日までの日程で実施した。今回は9社10名の方々にご参加をいただいた。中国とベトナムの視察は今回で共に2回目となる。

中国は15年ぶり、ベトナムは11年ぶりの視察である。特に中国では深センに本社を置くBYD社を、ベトナムではクアンナム省のTHACO社を訪問することができた。

視察日程の概要は次の通り

- 8月20日 羽田空港発、中部国際空港発 香港国際空港着 香港市内視察
- 8月21日 BYD社視察(中国 深セン)
- 8月22日 香港国際空港発 ベトナム ダナン空港着
- 8月23日 THACO社視察(ベトナム クアンナム省)
- 8月24日 ダナン空港発 香港空港経由 中部国際空港着 羽田空港着

丁度、出発の1週間前に空港で大きなデモがあり、空港が封鎖されてしまったニュースが飛び込んできた。一時は視察の中断さえも考慮しなければならないか、と深く憂慮したが、旅行会社からの現地情報、外務省の渡航情報を入手し、参加メンバーとも情報を密に

【THACO社視察】



ベトナムでは、クアンナム省のTHACO社のタコ・チュ・ライ工業団地内にある自動車工場施設を訪問した。

THACO社は1997年に設立。同社は国策に沿って商業や農業、建設など様々な事業展開を行っている。

自動車関連ではマツダ、KIA、プジョー等の乗用車や、自社ブランドのトラック、バス、トレーラ等の商用車を製造している。現在、THACO社の自動車シェアは国内トップであり、内製化率はバスで60%、トラックで35~45%、乗用車で17%とのことであった。当日は、トラック工場、バス工場、乗用車工場等を見学。各生産工場は隣接して建っているが、一つ一つが巨大で見学は電動カートを利用して行われた。見学の後は活発なディスカッションが行われ、その一つでは、現在、日本では、外国人労働者の研修制度があるが、そういった方々も帰国後に迎え入れて採用をされているのか、という質問では、従業員はほとんど現地採用で、社員教育プログラムも自社開発しており、自社で育てているということであった。

自動車生産では乗用車、バス、トラック、トレーラ、バイクを製造している。

2005年から2019年までで630,702台を生産している。

2018年はベトナムで38.3%のシェアでトップ、第2位がトヨタで30.1%、第3位がホンダで13.4%。

工場について：

トラックの工場：発足は2004年9月 面積は38ha 資本金4兆ドン

トラックの新工場：2020年1月に完成予定 生産能力 5万台/年 面積 11ha

第一段階（組立ショッ プ テスタライン 2019年9月）

第二段階（溶接ショッ プ 塗装ショッ プ 20201月）

THACOバス工場：

発足2017年12月 面積17ha 生産能力 2万台/年 資本金7兆ドン

バス製品 7ー7.7m、7.9ー10m、12m、 専用バス、輸出バス

THACO KIA工場：

発足 2017年12月 面積20ha 生産能力3万台/年 資本金3兆5000億ドン

THACO MAZDA工場：

発足 2018年3月 面積330ha 生産能力10万台/年 第1段階 5万台/年

資本金12兆ドン

高級乗用車工場（THACO LUXURY）：

発足 2019年9月 面積7.5ha 生産能力2万台/年 資本金4兆4500億ドン

製品：PEUGEOT

大荷重専用工場：

発足 2016年2月 面積4ha 生産能力5,000台/年 資本金5000億ドン

製品：トレーラ、ダンプトレーラ、専用トレーラ、車体トレーラ、LPGトレーラ、
車載トレーラ、燃料タンク車、コンクリートミキサ車、クレーントラック

その他の工場 韓国にSOOSUNG モータテクノロジー

面積1.5ha 生産能力60台/年 資本金3000億ドン

自動車用席生産工場（AUTO COM）

発足 2008年4月 面積5,800㎡ 生産能力8万セット/年 資本金2000億ドン

乗用車シート、トラックシート、スリープバス、バスシート、シートクッション、
シートカバー

トラック及びバス用エアコン生産工場：

発足 2010年9月 生産能力4万セット/年 資本金1000億ドン

バスエアコン 29席、バスエアコン 45席

従業員について：

THACO社全体で8,400名

技術者は5%

離職率は0です。

平均年齢 27才

・教育はどのようにしているのか？

→新入社員プログラムがあり、一通りやっている。

定期的な幹部とのミーティングも実施している。

・日本は若い労働者が少なく、ベトナム人等の外国の方たちが日本の工場で働いているが、そのような方たちが、この工場で働くことは無いのか？

→ない。新規で採用して教育するシステムがあるので。まず、募集をする。教育訓練校や、従業員の再教育等を行っている。

内製化について：

バス60%、トラック35-45%、乗用車17.2%

輸について：2018年まで、裾野産業の総輸出額 2百万ドル

保証関係について：

IATF16949 2016 品質管理システムを保持

質疑応答

・我々は、部品や資材を扱っている団体として、今回訪問した。何でも自社ですすめているTHACO社で、何かお手伝いできることがあれば教えてほしい。

→バスの部品ですね。

・日本のバス業界では、部品メーカーが部品、資材を納品して製造を行っています。

→当社は、こんな田舎なので、近隣に部品を供給してくれる会社がありませんから、自社でできることは自社で取り組まないといけない。

・バスのトイレは供給できないか？

→現在のベトナムのバスには。ほとんどトイレが設置されていないので、今は需要はありませんが、必要になったときには、是非、お願いします。

・貴社の内製化を実施していることで、何かモデルみたいなのがありますか？

→最初はマツダやKIAと提携したことで、コンサルもお願いしていた。この数年は自社で設計してやっています。どの部品が自社で、つくれるか当調べる部隊があります。今は、全部そこでやっています。

・塗料は国内製なのか国外製なのか？

→国内製で、精錬塗装 水性を使用しています。

以上、今回は、なかなか見学することのできない中国、ベトナムの自動車関連施設を見学できたことに加えて、活発な情報交換も行えた大変貴重な視察であったという声を多数いただいた視察となった。





THACO BUS 工場



THACO社 所在地

【編集後記】



して「安全第一」の行動をとる、ということで実施の決定をした。参加者の皆様の英断が無ければ、今回の貴重な視察は実施できなかったことを思うと、ご参加いただいた皆様、関係者の皆様に感謝の気持ちで一杯である。この場をお借りして御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

また、視察に際し、視察先両社とのアポイント等ご尽力いただきました天龍工業の吉川社長様、堀部長様に、心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

8月20日朝、羽田空港と中部国際空港からそれぞれ出発、現地時間14:20に香港国際空港に到着。そこからバスで移動し、香港の街を視察、その後ホテルへ向かった。香港のガイドからは、デモの心配は全く要らない、と言われたのは大変驚いた。デモは主に週末に開催されること、場所が指定されていることで、十分回避できるということであった。



羽田空港出発



空港からバスで移動中の香港の風景



香港の街並み



夜は、香港の夜景を見学

【BYD社視察】

8月21日、朝、バスにのり香港から深センに向かった。

大陸の中国へ渡るのは入管手続きがあり、時間がかかるとのこと。隣の市に行くのも大変なことだと感じたが、ガイドに聞いたところ今回は、凄くスムーズに入管手続きが済んだと言うことであった。深センに入って、1時間くらいバスに乗ってBYD社の近くのホテルで昼食をとった。昼食後、ホテルを出るところで少し出庫トラブルがあり、少し緊張感が走った。バスの窓からは、深センの街ではBYDのタクシーや車を良く見かけた。



BYD社に到着すると、迎えの方々が待ってくださり、大歓迎してくれた。当日はBYDジャパンの王シニアマネージャーが、この視察のために、日本から駆けつけ、ご担当してくださった。王マネージャーは、とても日本語が堪能で、ディスカッションを含め全て通訳してくれた。とても若く優秀な人材である。当日迎え入れてくれたBYD社の社員は皆若い方々であった。このこと一つをみても、とても勢いのある会社だと感じることができる。



当日のBYD社の方々

田COO、王マネージャー、陳科長等、李管理部担当、

まず、始めに会社の概要説明があった。

同社は1995年に設立。社名は「Build Your Dream」（夢を実現する！）の頭文字をとっている。創業時よりリチウムイオン電池の製造を手掛け、携帯電話の普及に伴い大成長した。2003年に自動車業界へ参入、2005年にはプラグインハイブリッド車を世に送り出し、現在は電気自動車の販売台数世界一を誇る、中国有数の企業へ成長した。ちなみに深セン市内の全ての路線バスと、タクシーの9割が同社製の電気自動車である。また、同社の電気バスは世界で50万台、日本へは50台が納車されている。自動車、商用車、スカイレール、蓄電池、電気機器の5事業に携わる従業員は約20万人で、そのうちの1割がエンジニアとのこと。自動車事業ではガラスとタイヤ以外の部品は内製で、試験設備も充実しており、バス・トラック等大型車専用のEMC試験室まで所持している。

展示ルーム、EVバスやスカイレールの試乗、バス試作工場を見学した。見学後は田COOを交え、ディスカッションを行った。

同社の今後の展開や、日本の市場のとらえ方について？という質問に、当社は世界の環境問題を解決していくのは「エネルギー問題」とであると捉えている。日本もその世界の一つであり、特別日本ということではない。あくまで世界を対象としている、とのことであった。同社は今後も環境問題解決を目指し、さらにあらゆる事業を押し進めていくということであった。







左から 2 番目 田COO、3 番目王マネージャー



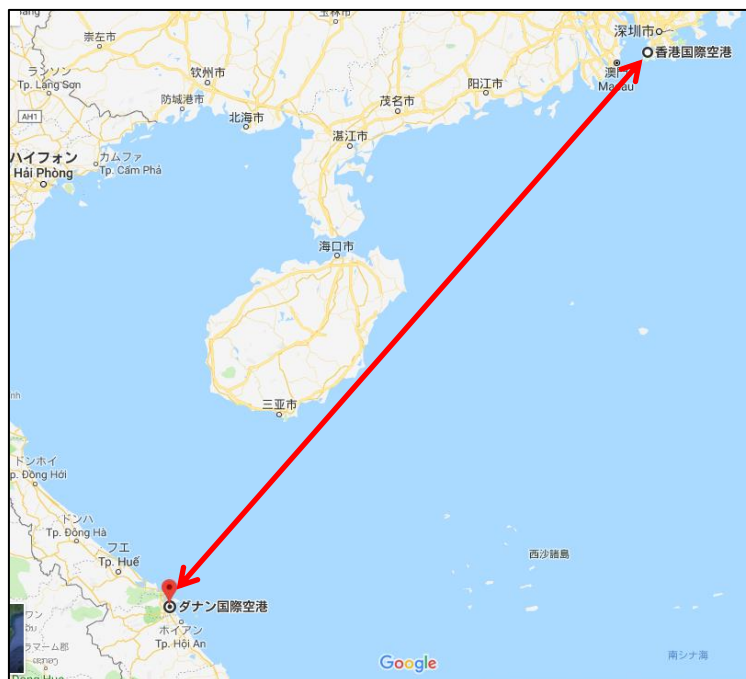
視察後のディスカッションも活発に行われた



視察のお礼の言葉（部会長より）



BYD社所在地



香港からダナンへ移動空路